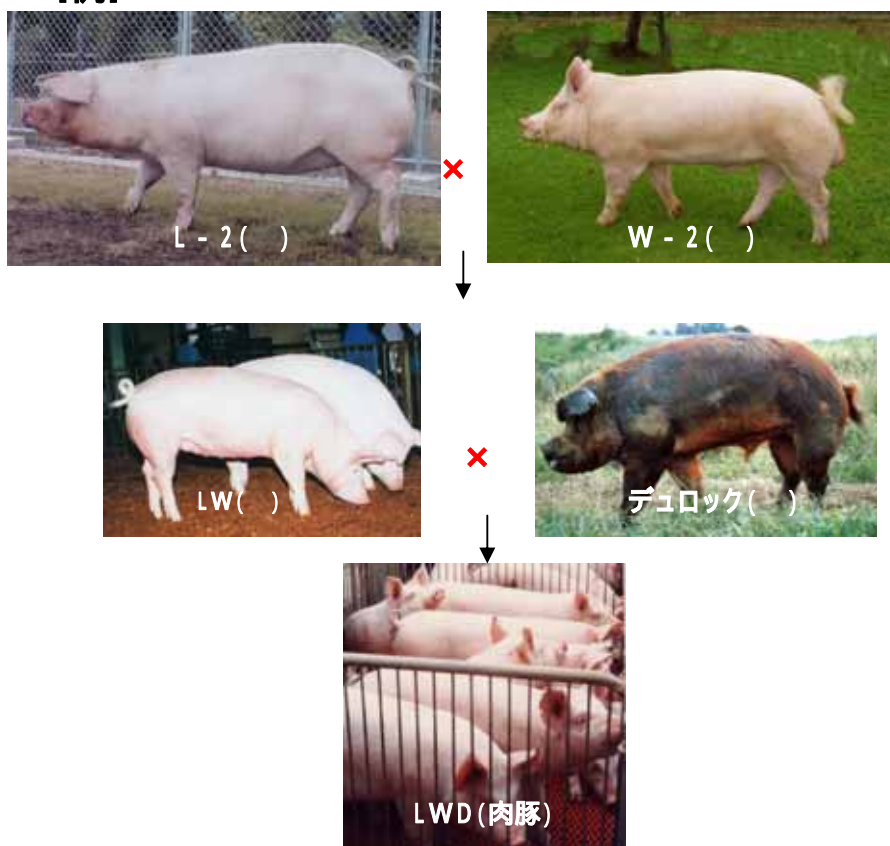


大ヨークシャー種系統豚「ローズ W-2」

畜産センター養豚研究所

系統豚とは、互いに一定以上の血縁関係を持った集団を構成する豚のことをいいます。集団内の豚は、遺伝的能力がほぼ同じであることから、斉一性のある豚が生産されます。養豚研究所では、平成8年に能力の高い種豚を国の内外から導入し、6年をかけて6世代の選抜を繰り返し、遺伝的に優れた能力を持つ大ヨークシャー種系統豚「ローズ W-2」を完成させました。

【例】



肉豚の生産

ランドレース種の雌豚に大ヨークシャー種系統豚「ローズ W-2」の雄を交配し、雑種強勢を利用して、繁殖性、強健性に優れた交雑種 LW を生産します。

そして、LW にデュロック種の雄を交配し、肉質に優れた LWD を生産します。

なお、「ローズ W-2」においては、雌も優れた資質を備えており、「ローズ W-2」の雌にランドレースの雄も交配可能です。

ランドレースは「ローズ L-2」、デュロックは「サクラ 201」等で系統間交配を行うことにより、より斉一性のある肉豚生産が可能となります。

ローズ W-2 の特徴

- * 肉質を悪くする PSE(フケ肉)遺伝子が排除されています。
- * 体型は、体の幅、深みに富み、後軀も充実し、肢蹄も強健性に富んでいます。
- * 性格が非常に温和で扱いやすい系統です。
- * パラツキの少ない子豚が生産されます。
- * ロース断面積が大きい(赤肉量が多い)のが特徴です。

ローズ W-2 の利用

茨城県の銘柄豚肉であるローズポークや、その他高品質豚肉生産の基礎豚や、雌はローズ F1母豚(WL種)の生産に広く利用することが期待されています。

< 問い合わせ先; 養豚研究所育種研究室 電話029(892)2903 >